

# 令和4年度事業報告

## 1 事業総括

### (1) 概要

本年度は新型コロナウイルス感染症の流行から3年目となり、夏場の第7波、冬場の第8波と感染拡大期はあったが、重症化率の低い変異株に移行したこと等により、行動制限が徐々に緩和され人流が戻り、全施設利用者数が前年度対比120%に増加した。

また、一昨年度より継続して実施されたWeLoveキャンペーンやウエルカニ得々割キャンペーンの全国旅行支援制度といった観光事業支援策が、回復途上にある観光需要を押し上げる役割を果たし、施設での一定程度の利用者数増及びプレミアムクーポンによる売店売上げ増等、収益増加につながった。

施設では、これまでコロナ禍の中で培った感染防止対策を取りながらの集客ノウハウを活かし、感染拡大、収束に合わせて事業規模を機動的に変更する企画を実施した。結果的に年間を通して前年度より開催数、収容人数等を拡大した事業を行うことができた。このほか広報・営業においては、各施設がターゲット客層を意識しSNS等で積極的にPRをしたり、テレビCM等マスメディア活用でもより多くの露出を行うことで、集客増につなげたほか、これまで中断していた旅行会社商談会等の再開により営業活動も多く実施することができ、団体客も大幅に増加した。

今後もポストコロナの社会情勢に即したニーズをとらえ、さらなる集客と消費を呼び込んでいかなければならない。インバウンドが増加する一方、長期間に渡る観光事業支援策の影響か地元客の減少が見られ、客層や求められるサービスの変化も見込まれる。こうした情勢に組織内でアイデアを出し、関係機関とも緊密に連携して機を逃さず対応する必要がある。

また、組織内の取り組みとして業務効率化のためデジタル化を推進しており、事務分野では勤怠管理及び年末調整システムの導入や通販サイトシステムの改善を行ったほか、集客対策ではグーグルビジネスプロフィール活用検討に取り組んだ。

各施設の連携に関しては、リモート会議で経営本部会議を毎月開催し、経営状況の把握と分析を行い収支状況の改善に向けて一丸となって取り組んだ。個別の課題については、総務会議、集客担当者会議などを通じて、各分野の問題点等を話し合いより充実した事業の実施に向けて情報共有を図った。また、労務関係の課題解決をテーマとする「改善検討委員会」では有給休暇取得促進等より働きやすい職場作りのための検討を行ったほか、「お客様満足度向上委員会」を開催し「クレンリネス向上」をテーマに施設の魅力アップに取り組んだ。

職員の待遇改善に関しては、決算見込み段階での収支状況により物価高騰等の影響を考慮した令和5年度よりの一部職種の賃金ベースアップを決定したほか、令和4年度末に全職種への一時金支給を行った。今後、経営状況に鑑みながらもベースアップ未対応の職種の賃金改定も実施し職員の定着とモチベーション向上を図っていく。

このほか、さらなる事業の拡充と経営安定化を目指し、令和5年11月より開園予定の「青谷かみじち史跡公園」の新規指定管理者募集に株式会社チュウブと共同で応募し、指定管理者として選定された。現在管理運営する指定管理施設においては、令和6年度からの次期指定管理期間に向け、各施設がこれまで培った実績とノウハウを活かしながら、更なるサービス向上や魅力作り、業務改善の検討と試行を行い、応募に向けての準備を進めた。今後確実な受託のため、さらに事業を磨き上げ各方面のレベルアップに取り組んでいく。

## (2) 受託施設の利用状況

本年度の利用者数は1, 112, 410人と、前年度との比較で120%、計画に対しては80%となり、コロナ前の水準への回復にはまだ及ばないが、観光事業支援策による助成を活用しながらも前年度からの着実な改善を感じることができた。

事業については、感染が拡大した期間に一部中止した大型のイベントもあったが、各施設がそれぞれの特色を活かした訴求力と新規感のあるイベントを、中小規模の機動性の高い形態で実施する等工夫をこらして行った。かっこ館のえさやり体験の充実、響の森のウェビナーを活用した学習企画、なしっこ館の体験型ワークショップ、タワーは国際交流イベントなどを実施して集客増と利用者の満足度向上につなげた。とっとり花回廊のフラワーイルミネーションは、県内小学生がデザインした点灯パターンの採用や、園内を周遊するフラワースタートレインの運行などで地域連携も取り入れた新たな魅力を作り高評価を得た。

また、臨海公園はSDGsをテーマにしたイベントを実施し参加者に好評だったほか、こどもの国は、令和5年度の開園50周年記念に併せたプレイメント等の実施、燕趙園は庭園の魅力とチャイナドレスレンタルなどSNS映えを意識したコンテンツの発信等により話題を作り集客増につなげた。

(総利用者数)

施設名	R4年度		令和3年度実績 C	達成率 B/A	前年対比 B/C
	目標(人) A	実績(人) B			
鳥取砂丘こどもの国	150,000	139,517	90,526	93%	154%
とっとり賀露かっこ館	175,000	178,388	144,120	102%	124%
氷ノ山自然ふれあい館	45,000	45,106	42,575	100%	106%
東郷湖羽合臨海公園	378,000	248,396	240,122	66%	103%
中国庭園燕趙園	65,000	59,388	46,066	91%	129%
鳥取二十世紀梨記念館	108,000	101,944	68,422	94%	149%
夢みなとタワー	125,000	72,540	62,373	58%	116%
とっとり花回廊	350,000	267,131	232,289	76%	115%
合計	1,396,000	1,112,410	926,493	80%	120%

## (3) 収支状況

### ①最終予算額との対比

正味財産増減額については、全体で14,854千円程度の黒字を見込んでいたが、最終的に黒字額は54,224千円と大きく増加した。

収入は全体で1,721,138千円、支出は全体で1,667,615千円となり利用者増による事業収入の増加幅が大きかった。

### ②令和3年度決算額との対比

収入は全体で198,159千円の増加、支出は全体で83,584千円増加した。

収入は収益事業収入は増加したほか、県からの光熱水費等高騰分の支援金により受託収入が増加した。支出の増の主な要因は、実施イベント等の増による集客促進費増や価格高騰による燃料費、光熱水費の増、利用者増による売店仕入れ費の増が上げられる。

正味財産増減額については昨年度は60,779千円の赤字であったが、115,003千円増加し、54,224千円の増額となった。

(決算総括表)

(単位：千円)

区分	項目	当初予算	最終見込	R 4 決算	R 3 決算	対最終	対前年
			A	B	C	B - A	B - C
収入	受託収入	1,047,632	1,086,166	1,086,382	1,054,110	216	32,272
	事業収入	678,395	549,737	566,504	410,973	16,767	155,531
	その他収入	527	62,140	68,252	57,896	6,112	10,356
	計	1,726,554	1,698,043	1,721,138	1,522,979	23,095	198,159
支出	管理費	1,352,577	1,324,978	1,314,714	1,310,983	△ 10,264	3,731
	事業費	373,977	358,943	352,901	273,048	△ 6,042	79,853
	計	1,726,554	1,683,921	1,667,615	1,584,031	△ 16,306	83,584
経常増減額		0	14,122	53,523	△ 61,052	39,401	114,575
経常外増減額		0	732	701	273	△ 31	428
正味財産増減額		0	14,854	54,224	△ 60,779	39,370	115,003

## 2 鳥取県からの指定管理者受託業務

### (1) 受託施設

- ア. 鳥取県立鳥取砂丘こどもの国
- イ. 鳥取県立とっとり賀露かっこ館
- ウ. 鳥取県立氷ノ山自然ふれあい館
- エ. 鳥取県立東郷湖羽合臨海公園（引地地区を除く。）（㈱チュウブとの共同運営）
- オ. 鳥取県立東郷湖羽合臨海公園（引地地区に限る。）
- カ. 鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館
- キ. 鳥取県立夢みなとタワー
- ク. 鳥取県立とっとり花回廊

### (2) 受託業務

- ア. 受託施設に係る利用・集客促進に関すること
- イ. 受託施設の維持管理に関すること
- ウ. 受託施設の料金等の徴収に関すること
- エ. 受託施設の利用者等に対する供用上の指導等に関すること
- オ. その他、受託施設に付帯する事務に関すること

# 令和4年度事業実績報告書

## 【 鳥取砂丘こどもの国 】

### 1 事業概要

(主な取り組み)	(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)
<p><b>1 花の丘造成について</b> 4年度は、春にチューリップ園で楽しんでいただき、球根堀のイベントも開催。華やかさと親子のふれあいの場を設ける。</p> <p><b>2 ぼうけんアスレチックコースの新設及び樹林地整備について</b> 樹林地に木製アスレチック遊具を設置。4年度で4基目。周知、利用促進を図るため、現場付近でのイベント(自然観察会等)を開催。</p> <p><b>3 真夏のスケートイベントについて</b> お盆期間に樹脂製スケートリンクを設置し、夏季に体験出来ないスケートを、家族で楽しんでいただき、話題性を高める。</p> <p><b>4 星空イベントについて</b> 冬季にモバイルプラネタリウムを設置。かつてこどもの国にはプラネタリウムがあり、当時を知る人には懐かしさと、星取県の魅力を発信し家族で楽しんでいただく。</p>	<p><b>1 花の丘造成について</b> 花の丘はチューリップを植栽。球根堀イベントも通常開催。植物への関心の一助となるとともに、家族で協力して掘り取りを行い親子ふれあいの機会提供に繋がった。新たにこどもの国入口の植栽を一新し季節の移り変わりを楽しめるものとした。</p> <p><b>2 ぼうけんアスレチックコースの新設及び樹林地整備について</b> ぼうけんアスレチック遊具付近にて虫の観察会を実施。園内の樹林地の活用とともに自然環境の中でのぼうけんアスレチック遊具のPRにもつながった。遊具の設置場所がドリームキャッスル奥にあるため継続して周知し利用促進が必要である。</p> <p><b>3 真夏のスケートイベントについて</b> 開催予定時期がコロナ流行ピーク時と重複し、開催場所である多目的ホール内に参加者を集中させることが危険であると判断したため開催が見送られた。</p> <p><b>4 星空イベントについて</b> 上映40分程度のモバイルプラネタリウムを1日5回上映。講師の丁寧な解説に参加者は満足した様子がうかがえた。親子の思い出作りになるとともに、子どもが星の名前や星座について知るきっかけになった。密閉空間であるため継続してコロナ感染対策を行いイベントを実施する。</p>

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度目標(人) A	18,000	26,000	13,000	12,000	25,000	12,000	11,000	9,000	3,000	4,000	4,000	13,000	150,000
令和4年度実績(人) B	13,605	27,198	7,095	9,694	19,020	12,117	14,334	13,469	3,010	2,853	4,282	12,840	139,517
対目標比率(%) C=B/A	75.6%	104.6%	54.6%	80.8%	76.1%	101.0%	130.3%	149.7%	100.3%	71.3%	107.1%	98.8%	93.0%
令和3年度実績(人) D	8,497	10,737	5,208	8,050	7,827	9,988	13,309	10,812	2,717	3,019	1,811	8,551	90,526
対3年度比率(%) E=B/D	160.1%	253.3%	136.2%	120.4%	243.0%	121.3%	107.7%	124.6%	110.8%	94.5%	236.4%	150.2%	154.1%

入園者の推移、増減要因	<p><b>1 入園者の推移</b> 対前年 4月～12月・2～3月 増 1月 減 通算 48,991人増</p> <p><b>2 増減要因</b> 4月～12月 2月～3月 令和3年度は緊急事態宣言、出控えがあり前年比増。また比較的天候も良く前年比増。イベントも感染対策を実施しながら開催。大型イベントも開催し入園者増。</p> <p>1月 積雪等天候不良により微減</p>
-------------	--

# 令和4年度事業実績報告書

## 【 とっとり賀露かっこ館 】

### 1 事業概要

<p>(主な取り組み)</p> <p><b>1 サービスの向上に向けた取り組み</b></p> <p>①えさやり体験の実施方法、エサの種類の柔軟な変更により利用しやすい環境を整えた。</p> <p>②海水温上昇により摂餌料低下が懸念される夏期において、キンセンガニ釣りイベントを並行して行った。</p> <p>③コロナ禍で休止していた生き物タッチングを実施方法を改め、有料イベントとして再開させた。</p> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>①イベントチラシの作成を再開し、県東中部の幼稚園・保育園・小学校・観光施設に配布した。</p> <p>②SNSを活用して生き物の動画等を継続的に配信しフォロワー等の増加に繋げた。 (Twitterフォロワー昨年より130%増、YouTubeチャンネル登録者2人→24人)</p> <p>③季節感や話題性のある企画展示や新たな取り組みを、タイミングを逃さずマスメディアに資料提供し、パブリシティによる広報を充実させた。</p> <p><b>3 地域・事業団施設との連携</b></p> <p>①かろいちの協力により、魚料理教室を開催した。</p> <p>②鳥取・賀露みなとオアシス主催の小学生対象夏休みイベントに協力し、ヒラメの放流・魚の餌やり・キンセンガニ釣り体験を実施した。</p> <p>③賀露町子供助成会、鳥取・賀露みなとオアシスと連携し、芝生広場にてウインターイルミネーションを実施した。</p> <p>④事業団施設において出前かっこ館および出前ワークショップを実施した。</p>	<p>(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)</p> <p><b>1 サービスの向上に向けた取り組み</b></p> <p>①えさやり体験の開催時間を固定しチラシ等で周知したこと、また魚の成長に合わせてエサの種類を変更するなど繰り返し楽しめるよう工夫したことで、参加者は前年比159%の10,933人と大幅に増加した。</p> <p>②8月中旬に7日間実施し、541人の参加があり顧客満足度の向上に貢献した。上記1-①と併せ、今後も摂餌料低下が懸念される夏と冬は、タッチングやキンセンガニ釣り、バックヤードツアー等を実施しサービスの低下を防ぐ。</p> <p>③コロナ禍前にはふれあい水槽で開放していた生物のタッチングを、簡易水槽で職員の付き添いの下で体験する有料メニュー(イベント)に改め再開させたことで、適切な解説や介入により生物への負担軽減、および参加者の満足度向上に繋げることができた。今後は週末等のスポットイベントではなく毎日実施の体験として定着を目指す。</p> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>①チラシ配布によるイベント周知ができたが、一部人気イベントを掲載したときのみの集客に限定された感がある。今後はマーケティングなどを行い効果的な広報を行うことが必要。</p> <p>②SNSによる継続的な動画配信等が注目されているが、館内アンケートのかっこ館を知ったきっかけ「SNS、ホームページ」はR4年度22%に対しR5年度は16%となっている。フォロワー数などは増えてきているが、今後はSNSなどがきっかけで入館者を増やす方策が必要。</p> <p>③展示の更新時や珍しい生き物の展示等、タイミングを逃さずマスメディアに資料提供し報道もされ、それきっかけでの入館はあったが、どの程度の効果があったか不明。今後上記の2-②も含め効果測定方法を模索する必要がある。</p> <p><b>3 地域・事業団施設との連携</b></p> <p>①かろいちの講師の下、地元で水揚げされた新鮮な魚5種の捌き方、調理方法、食べ方などを伝えることで、食育および魚食普及の啓発をすることができた(参加18名)。今後は新しい県魚の料理教室など目新しい打ち出しを行い、魚食の普及も目指す。</p> <p>②イベントを通じて、地元の子どもたちに水産資源の減少や栽培漁業について理解を深めてもらい、豊かな海づくりへの啓発をすることができた。</p> <p>③子どもたちの作品発表の場として、話題作りおよび利用促進に繋げることができた。上記3-②と併せ、地元団体と緊密に連携ができ、小学高学年の利用者も多く来館いただいた。今後も地元楽しんでいただける運営を続ける。</p> <p>④出前かっこ館、工作ワークショップにおいて、利用者に対し館の魅力をPRすることができた。今後も同様に続けていく。</p>
--	--

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度目標(人) A	13,300	16,800	12,600	17,500	28,000	14,700	14,700	15,400	11,200	9,800	6,300	14,700	175,000
令和4年度実績(人) B	12,414	17,652	12,483	19,698	26,416	15,454	13,129	14,753	10,726	10,820	9,744	15,099	178,388
対目標比率(%) C=B/A	93.3%	105.1%	99.1%	112.6%	94.3%	105.1%	89.3%	95.8%	95.8%	110.4%	154.7%	102.7%	101.9%
令和3年度実績(人) D	9,851	12,441	10,476	16,044	17,952	12,104	13,407	15,497	9,973	8,736	5,688	11,951	144,120
対3年度比率(%) E=B/D	126.0%	141.9%	119.2%	122.8%	147.2%	127.7%	97.9%	95.2%	107.6%	123.9%	171.3%	126.3%	123.8%

<p>入館者の推移、増減要因</p>	<p><b>【入園者の推移】</b> 対前年比 123.8% 対目標比 101.9%</p> <p><b>【要因】</b> ・前年に比べコロナの影響が緩和され、県外からの観光客が増加した。 ・夏以降イベントチラシ作成を再開させ幼・保・小および観光施設に配布したことで地元での誘客に繋がった。 ・コロナ対策の館内滞在上限人数を見直した。</p>
--------------------	---

# 令和4年度事業実績報告書

## 【 氷ノ山自然ふれあい館 】

### 1 事業概要

<p>(主な取り組み)</p> <p><b>1 自然体験プログラム等の充実</b></p> <p>①イヌワシホール等を利用した各種展示会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み企画展「日本の生物多様性とその保全」等</li> <li>・秋の企画展「『イマドキの野生動物』写真展」</li> </ul> <p>②新型コロナに対し、様々な対応策を行い、プログラムの実施に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型の展示を行いにくい状況が続くなかで、エントランスホールに巢層を設置し、鳥取県東部の淡水魚を展示した。</li> <li>・小中学校の宿泊学習の内容を深めるため、事前事後に出前授業を行った。</li> <li>・参加型オンラインスクールに参画してオンライン授業を行い、県外の子どもたちに氷ノ山の自然を紹介した。</li> </ul> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>①学校や幼稚園等に出前等のPRチラシを送付した。</p> <p>②個人向け「エコツアー」をイベントチラシでPRするとともに冬季メニューは新聞広告にて兵庫県向けにPRした。</p> <p><b>3 地域、団体等との連携</b></p> <p>①響の森クルー(ボランティア)に、定期的な自然調査やイベント補助に取り組んで頂いた。</p> <p>②実行委員会の事務局として「わかさ氷ノ山・山フェス」の開催に取り組んだ。新型コロナウイルス対策を取りながらステージイベントや屋台等で盛り上げを図った。</p> <p><b>4 環境に配慮した事業活動への取り組み</b></p> <p>①鳥取県版環境管理システム審査登録制度(TEAS)Ⅱ種規格の認定維持に取り組んだ。</p> <p>②鳥取県補助事業として希少な植物コキンバイの保護管理事業に取り組んだ。</p> <p>③イモリのモリアオガエルの棲む、近くの町道側溝の整備をクルーと共に取り組んだ。</p> <p><b>5 施設の安全管理</b></p> <p>①イベント、施設管理等マニュアルによる安全管理。館内を点検し修繕や所管課への報告</p> <p>②新型コロナ感染予防対策を徹底した。</p>	<p>(主な取組に対する結果の評価及び課題と対応方針)</p> <p><b>1 自然体験プログラム等の充実</b></p> <p>①夏休みと秋の企画展の参加者数は、それぞれ3,173人(対前年比128%)と3,367人(対前年比91%)。生物多様性と保全への取り組み、野生動物の現状や付き合い方等を考えてもらう機会となった。</p> <p>②大人も子どもも入館してすぐ水槽に近寄って魚をじっくり見たり、説明文を読んだりする等好評だった。今後も魚の管理に注意しながら継続していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の出前授業は、宿泊学習の事前事後の学習や通常学習の一環として等、5校で延べ546人が利用。学習が深まると好評だった。今後も要望があれば取り組んでいく。</li> <li>・オンライン授業は夏冬2回で全国358人の視聴があった。今後も継続し他施設にも広めたい。</li> </ul> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>①学校、幼稚園、子ども会等の出前依頼増。R3年度33件、984人⇒R4年度41件、1,148人(上記の学校含む)</p> <p>②夏休みのシャワークライミングを中心に参加者数の増(139人、対前年比221%)。冬季には兵庫県からの申し込みもあったが、期待よりも反応は薄く、方法は検討を要する。</p> <p><b>3 地域、団体等との連携</b></p> <p>①クルー活動参加者が年間で延べ59人(対前年比113%)。活動呼びかけ等で活発化を図る。</p> <p>②ステージイベント開催日は悪天候に関わらず多数の参加があり約1,200人(前年比80%)。今後も関係団体等と連携し取り組む。</p> <p><b>4 環境に配慮した事業活動への取り組み</b></p> <p>①鳥取県版環境管理システム審査登録制度(TEAS)Ⅱ種規格の認定を継続した。</p> <p>②生息地での保護柵設置及び響の森での域外保存及び保全のPRに取り組んだ。</p> <p>③側溝の溝掃除や草刈り、イモリの調査や生き物観察会を行った。</p> <p><b>5 施設の安全管理</b></p> <p>①安心してイベント等を楽しんで頂く。小修繕は職員で行って修繕必要箇所や危険箇所を把握。</p> <p>②氷ノ山安心観光・飲食エリアとして予防対策に取り組み、鳥取県安心対策認証店も取得。</p>
---	--

### 2 利用者一覧表(年間計画、実績)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度目標(人) A	3,500	11,500	3,450	5,000	7,500	2,700	5,300	3,500	400	750	750	650	45,000
令和4年度実績(人) B	3,593	12,407	4,062	4,297	5,130	2,254	7,970	2,786	436	784	891	496	45,106
対目標比率(%) C=B/A	102.7%	107.9%	117.7%	85.9%	68.4%	83.5%	150.4%	79.6%	109.0%	104.5%	118.8%	76.3%	100.2%
令和3年度実績(人) D	2,795	10,869	2,785	4,466	3,650	3,038	8,350	4,380	488	794	582	378	42,575
対3年度比率(%) E=B/D	128.6%	114.2%	145.9%	96.2%	140.5%	74.2%	95.4%	63.6%	89.3%	98.7%	153.1%	131.2%	105.9%
利用者の推移、増減要因	<p>(1)利用者増の時期及びその要因</p> <p>・GW…前年度開催しなかったアート展開催による観覧者数の増。6月…利用する学校数の増及び出前等様々な利用形態による増。</p> <p>8月…前年度の新型コロナウイルス感染拡大による入館者の減や団体利用のキャンセルからの回復、団体利用増。2月…オンライン授業開催による増。</p> <p>(2)利用者減の時期及びその要因</p> <p>・9月…前年度開催した作品展を開催しなかったことによる観覧者数の減。11月…新型コロナウイルス感染拡大による入館者数や利用団体の減</p>												

(単位:人)

# 令和4年度事業実績報告書

## 【 東郷湖羽合臨海公園 】

### 1 事業概要

(主な取り組み)	(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)
<p><b>1 公園づくりについて</b></p> <p>①長和田公園と燕趙園の中間地を整備し、ウォーキング等の休息地とする。</p> <p>②立枯れしている樹木の伐採及び生育不良木の植替え</p> <p><b>2 SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みイベントについて</b></p> <p>①SDGsで掲げる目標に即した内容でイベントを計画。「リサイクル」をテーマにし、フリーマーケットの実施。</p> <p>②「クリーン活動」をテーマとした、ウォーキングイベントの実施。</p> <p><b>3 Sea Sideマラニック の実施について</b></p> <p>マラソンとピクニックを合わせた内容で、景色や地元の食を楽しみながら自分のペースで歩く(走る)イベントを開催。長瀬公園のサイクリングルートを活用。</p> <p><b>4 共同企業体との連携事業</b></p> <p>日常の公園管理をはじめ、イベント実施時にも連携して取り組む公園づくり事業の推進により、公園の魅力向上に資する。</p> <p><b>5 湯梨浜町及び周辺施設との連携事業</b></p> <p>①「宙ユリ」育成及び展示。</p> <p>②燕趙園との連携事業の実施</p>	<p><b>1 公園づくりについて</b></p> <p>①当初計画の効果等を考慮し、県と協議を踏まえて、長和田公園内芝桜植栽の拡大に事業を振り替えて実施。2,000株を植栽し魅力向上、話題作りに貢献。</p> <p>②計画通り実施</p> <p><b>2 SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みイベントについて</b></p> <p>①秋に実施「秋フェス」と銘打ってスケートボード大会等とあわせて開催。約1,000人の来場者があり盛況だった。5年度も継続して実施する予定</p> <p>②前年度に引き続き実施し、参加者には好評だった。開催時期も含め参加者の増加に課題があるが、SDGsへの取り組みのPRに繋がった。</p> <p><b>3 Sea Sideマラニック の実施について</b></p> <p>参加者は16名。マラソンのイメージが強く参加に際してハードルが高かったと思われる。次年度は手軽に参加できるウォーキング大会の充実を図る。</p> <p><b>4 共同企業体との連携事業</b></p> <p>公園づくり事業において芝桜植栽を拡大したほか、園内看板の更新、生育不良木の更新を実施、イルミネーションも実施したほか、住民要望のあった藤津の水路清掃、新川地区の樹木整理も対応した。</p> <p><b>5 湯梨浜町及び周辺施設との連携事業</b></p> <p>①湯梨浜町 「宙ユリ」の開花の報告を湯梨浜町の町報等で紹介いただいた。 ガストロノミー、天女ウォーク、ベテラン卓球大会等町の主催事業に協力。</p> <p>②燕趙園との連携 10月(1,316人)及び3月(1,283)人に燕趙園を会場に共同イベントを実施、参加者も多く好評だった。</p>

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度目標(人) A	28,000	40,000	49,000	33,000	43,000	36,000	34,000	31,000	19,000	20,000	19,000	26,000	378,000
令和4年度実績(人) B	24,297	29,734	26,168	17,398	17,884	19,652	28,957	21,062	17,082	11,853	14,147	20,162	248,396
対目標比率(%)C=B/A	86.8%	74.3%	53.4%	52.7%	41.6%	54.6%	85.2%	67.9%	89.9%	59.3%	74.5%	77.5%	65.7%
令和3年度実績(人) B	22,543	26,154	25,027	21,256	17,687	20,031	27,804	22,656	15,031	12,132	10,779	19,022	240,122
対3年度比率(%)E=B/D	107.8%	113.7%	104.6%	81.8%	101.1%	98.1%	104.1%	93.0%	113.6%	97.7%	131.2%	106.0%	103.4%

<p>入園者の推移、増減要因</p>	<p>○行動制限が無くなったとはいえ 未だコロナ禍であり、その影響と、夏期の猛暑によって、通常時の目標数には大幅に足らなかった。</p> <p>○一方、前年度行われなかった大会・催事等が実施され、公園利用者が戻りつつあり、前年対比では増となった。</p>
--------------------	---

# 令和4年度事業実績報告書

## 【 中国庭園 燕趙園 】

### 1 事業概要

<p>(主な取り組み)</p> <p><b>1 中国庭園の魅力発信</b></p> <p>①中国雑技ショー、チャイナドレスレンタルなど定番の魅力の継続発信に努めた。 また、チャイナドレスを輸入し、新しい衣装が入荷したことをSNSで情報発信を行う。</p> <p>②中国の時節に合わせたイベントを開催。中国獅子舞や龍踊りの実施。</p> <p>③県内中国美術家の追悼指画展の開催。年末年始に干支モチーフで実施。</p> <p><b>2 周辺施設等との連携事業</b></p> <p>①新日本海新聞社との夏催事「こども忍者道場」を開催。(37日間開催、入場10,005人)</p> <p>②秋期以降は、地域のウォーキング大会の多くが再開。(ガストロノミー、天女、100km) 鳥取県老人クラブ連合会とのウォーキング大会、県レクリエーション大会の開催。</p> <p>③臨海公園との共同事業を継続して実施。</p> <p><b>3 道の駅の活用促進</b></p> <p>①春、秋に道の駅感謝祭を実施。県中部への折込広告にて周知を図る。</p> <p>②イベントチラシにて新規メニューを紹介。老龍頭では、夏期にスイーツメニューを強化。</p> <p><b>4 情報発信と営業の充実</b></p> <p>①ホームページやツイッターでタイムリーな情報発信を行った。</p> <p>②イベントチラシを県内観光・宿泊施設に配布したほか、県中部の小・幼・保に児童数配布した。</p> <p>③コスプレのSNSキャンペーンを実施。今回はチャイナドレスレンタルでの応募も募る。</p> <p><b>5 新型コロナウイルス対策</b></p> <p>①感染拡大防止対策の強化・徹底(検温・消毒・マスク着用等)</p>	<p>(主な取り組みに対する結果等の評価及び課題と対応方針)</p> <p><b>1 中国庭園の魅力発信</b></p> <p>①中国庭園、中国雑技ショー、は目的来園がそれぞれ61%、35%、満足度は61%、50%となっている。 チャイナドレスレンタルは売上1,552千円(対前年173%)情報発信を継続していく。</p> <p>②龍踊りは地元小学生さんの卒業公演となるため継続実施する。</p> <p>③中国関連の展示会等のコンテンツ誘致が課題。</p> <p><b>2 周辺施設等との連携事業</b></p> <p>①イベントの枠組みは多少変わるが、R5年度は「世界の大昆虫展」を予定。</p> <p>②地域の大会には多くは実行委員会のメンバーとして参加。終了を模索する大会もある。</p> <p>③4月の芝桜×ボタン周遊催事は参加者頭打ち。もっと参加しやすくするために、ビンゴを集めながらのスタイルに変更(R5年度159名、対前年159%) 10月燕趙園まつり2,053人、12月イルミ連携29人、3月春のこどもまつり1,283人</p> <p><b>3 道の駅活用促進</b></p> <p>①春1500人、秋1500人集客。定番コンテンツを活かし、目新しいイベントと併せ集客を図れるかが課題。</p> <p>②R4年度、売店34,718千円(対前年159%)、老龍頭13,088千円(対前年130%) 地元産の農産物、生鮮品の強化が課題。</p> <p><b>4 情報発信と営業の充実</b></p> <p>①情報発信の更新頻度、発信者の増。公式ホームページの更新。</p> <p>②アンケート集計により、県内の0、10歳代はチラシにより効果的に集客できている。継続。</p> <p>③SNSキャンペーンはツイッター14名、インスタ4名のべ92枚投稿</p> <p><b>5 新型コロナウイルス対策</b></p> <p>①安全安心を最優先した上で、R5年度出口戦略を模索。</p>
--	--

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度目標(人) A	4,000	6,000	4,000	7,000	18,000	4,000	5,000	5,000	3,000	2,500	2,500	4,000	65,000
令和4年度実績(人) B	3,243	6,936	4,134	6,475	10,761	3,931	5,871	5,649	2,948	1,858	2,503	5,079	59,388
対目標比率(%) C=B/A	81.1%	115.6%	103.4%	92.5%	59.8%	98.3%	117.4%	113.0%	98.3%	74.3%	100.1%	127.0%	91.4%
令和3年度実績(人) D	2,129	3,818	2,125	8,301	7,984	2,839	4,366	5,401	2,823	1,852	1,214	3,214	46,066
対3年度比率(%) E=B/D	152.3%	181.7%	194.5%	78.0%	134.8%	138.5%	134.5%	104.6%	104.4%	100.3%	206.2%	158.0%	128.9%

<p>入園者の推移及び増減要因</p>	<p>入場者の推移及び理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月・5月 GW期間中の来園者増</li> <li>・6月 団体利用の増</li> <li>・7月 夏イベント入園者減(R3は夏4連休あり)</li> <li>・8月 個人庭園入園者増</li> <li>・9月 個人入園者、修学旅行、ガストロノミウォーク開催による増</li> <li>・10月 個人入園者増</li> <li>・11月 修学旅行、団体利用は減となったが、全国旅行支援に効果により個人入園者増</li> <li>・12月・1月 積雪の影響により前年並みの水準</li> <li>・2月・3月 コロナ終息傾向により入園者増</li> </ul>
---------------------	---



# 令和4年度事業実績報告書

## 【 鳥取二十世紀梨記念館 】

### 1 事業概要

(主な取り組み)

梨に関する産業、歴史及び文化への県民理解を深めるとともに、観光及び果樹振興に資するための取り組みを実施。

昨年好評だった展示イベントの内容を新たに開催したほか、新型コロナウイルスの発生以降、2年間見送っていた夏休みイベントを一部再開するなど、感染対策を行いながら、ウィズコロナに向けた事業を実施した。

#### 1 魅力発信

- ① 時季を問わず、一年中3品種の梨の食べ比べができることをセールスポイントとして集客促進を行った。
- ② 晩生梨の魅力をアピールした。
- ③ HPだけでなくSNSによる情報発信に努めた。

#### 2 イベントの充実

- ① 毎月最終日曜日に開催する無料感謝デーを継続実施し、入館者増加及び地域貢献に努めた。
- ② 子供も楽しめるよう多様なイベントを開催し、魅力向上に取り組んだ。
- ③ 梨ガーデンにおいて、梨狩りなど直接梨に触れる体験学習イベントを開催した。
- ④ 地元のイラストレーターとのコラボした展示イベントを開催した。

#### 3 梨農家支援の充実

- ① 「鳥取梨つくり大学」の開講を継続して専門知識の普及を図った。
- ② 「梨のなんでも相談室」を常設して技術専門員が対応した。
- ③ 梨のジョイント栽培の普及を図った。

(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)

#### 1 魅力発信

- ① 大きなアピールポイントとなっており、集客促進に寄与した。感染拡大防止の為カップによる個別提供を実施した。(無料感謝デーについては、提供中止)また「梨漫遊記」と題し、3品種のうちの1品種を他県の梨とした食べくらべイベントを実施(4日間で2,155人)。特別編として1月に氷温貯蔵した県産梨(二十世紀梨)の食べくらべを実施(3日間で1,165人)、シーズン外で実施することで話題作りとなった。
- ② 二十世紀が出回るトップシーズンには広告等広報で「梨販売中」をPRしていたが、今年は晩秋梨シーズンも積極的に販売する旨の内容を盛り込んだり、「こたつで梨」をPRし販売促進につながった。(王秋、愛宕の販売で前年比約180%の売上があった)
- ③ SNSによるタイムリー且つこまめな情報発信により、ユーザーとの親密性が増したことで、フォロワー(固定のファン)が増えている。梨の食べ比べ、販売梨、イベント情報に加え、何気ない一コマや館内の様子を地道に情報発信した結果、フォロワー数が750人→1,200人に増加した。SNSの特性を活かし、近隣施設や、県内外の関連施設、生産者、作家・アーティスト等とも繋がりができはじめている。

#### 2 イベントの充実

- ① 無料感謝デーは通年で12日開催し、12,884人の入館者となり、地域イベントとの相乗効果があり、地域に定着した日となっている。
- ② 体験型ワークショップ(2,230人参加)を中心に実施し来館者の満足度向上に貢献した。
- ③ 摘果・小袋かけ、大袋かけ、梨狩り体験に加え、新規体験として「春の交配体験」も実施し、ガーデンでの梨を育てる体験イベント全体で532人の参加があった。
- ④ 全て梨を絡めた作品のみとし、期間中にはライブペインティングを開催し、作品展+αとして実施。作品展を目的のリピーター客も多かった。またコラボグッズの販売など収入面でも効果が出た。(販売額が811千円)

#### 3 梨農家支援の充実

- ① 「鳥取梨つくり大学」を年11回開催、49人の入学者(内新規に16人)があり、梨生産農家や新規就農希望者に対して専門知識を普及するとともに情報交換の場を提供した。
- ② 「梨のなんでも相談室」で梨栽培の技術相談を受けることにより、梨農家等への支援に貢献した。
- ③ 新しい梨の栽培法であるジョイント栽培の技術向上を図るため、「第2回鳥取県ジョイント栽培コンクール」を開催した。又、報道向けの実演会を開催しジョイント栽培をPRした。

### 2 入館者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度目標(人) A	7,000	9,000	6,000	9,000	19,000	12,000	9,000	9,000	6,000	6,000	8,000	8,000	108,000
令和4年度実績(人) B	5,279	8,561	6,664	8,104	15,369	11,109	10,026	10,231	6,134	4,107	6,383	9,977	101,944
対目標比率(%) C=B/A	75.4%	95.1%	111.1%	90.0%	80.9%	92.6%	111.4%	113.7%	102.2%	68.5%	79.8%	124.7%	94.4%
令和3年度実績(人) D	3,730	5,879	3,554	6,776	8,736	7,861	8,085	8,133	3,899	3,302	2,594	5,873	68,422
対3年度比率(%) E=B/D	141.5%	145.6%	187.5%	119.6%	175.9%	141.3%	124.0%	125.8%	157.3%	124.4%	246.1%	169.9%	149.0%

入館者の推移、増減要因

#### 【推移】

・月単位では前年比119.6%~246.1%と毎月、対前年増加が続き、年間で101,944人の入館者となり、前年比では33,522人の大幅に増加(149.0%)した。

#### 【要因】

・We Love山陰キャンペーン、ウエルカニ得々割の旅行支援事業等により、新型コロナウイルスの影響はうけたものの、観光需要は徐々に回復傾向で、個人客(個人利用、小団体利用)が大幅に増加した(対前年21,529人増)。団体客についても全国旅行支援を利用したツアー等の催行により対前年3,843人の増となった。  
 ・無料感謝デーについても、12,884人の入館者で対前年4,133人の増と大きく増加した。又コロナ禍で極端に減少していた外国人観光客も、11月以降回復傾向となり、対前年では1,971人の増となった。  
 ・食べ比べ、ワークショップ、梨狩り体験イベント等の事業についても、感染対策を行いながら、通常開催できたことが入館者増にも繋がった。

# 令和4年度事業実績報告書

## 【 夢みなどタワー 】

### 1 事業概要

(主な取り組み)

#### 1 コロナ禍に対応した安全管理と利用促進の両立

新型コロナ感染症の影響が継続するなかで、感染拡大防止に務めながらコロナ禍でもできる集客を行った。

- ①4-6月(感染拡大期)オミクロン株の蔓延のため、春休み大型イベントを中止、5、6月に中型イベントを実施
- ②7-9月(感染拡大期)夏休み大型イベントの安全な開催とその他のイベントの中止。9月フリマ中止。
- ③10-12月(感染収束期)国際交流の日、フリマ等イベント再開
- ④1-3月(コロナ禍収束)3月大型イベント「ダンボール遊園地」の自主開催。

#### 2 地域との連携と観光振興

- ①新日本海新聞社との夏の連携イベントとしてアリスインマジックワールドを開催した。
- ②夢みなど公園まつり実行委員会の一員として春・夏に「公園まつり」を開催した。
- ③新たに「いいじゃんプロジェクト」と連携し、「にゃんにゃんフェスタ」を立ち上げた。
- ④(社福)境港社会福祉協議会と協力し、「夢みなどこどもまつり」の代替イベントの展示会を開催した。

#### 3 効率的な施設運営

コロナ禍による利用者減少に合わせて設備や人員の最適化を図った。

- ①空調方法の見直しを行い、燃料と電気の使用量削減に務めた。
- ②ホールの展示会需要が無くなったことから、空室となったホールを無料開放した。
- ③修繕や備品購入等も積極的に行った。

(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)

#### 1 コロナ禍に対応した安全管理と利用促進の両立

コロナ禍における運営も3年目となり、運営ノウハウも蓄積されてきたことから、1年を通じて、その時々での感染拡大状況に応じた集客イベント等を実施することができた。

- ①4-6月:オミクロン株の蔓延により例年実施していた大型イベントを中止したが、GW明け以降は国際交流の日や新規のわんにゃんフェスタ等を開催することで少しずつ挽回をすることができた。
- ②7-9月:感染対策をしっかりと行った上で夏休み大型イベントを開催。コロナ禍で人が集まらないリスクを考慮して例年よりも事業費を抑えたイベントとなったが、前年並みの2万人を集めることができた。
- ③10-12月:国際交流の日は、テナントの韓国食材の店と協力した大規模な試食会などを行い、テナントの売上にも大いに貢献できた。
- ④1-3月:3月大型イベントは日本海新聞社が主催から下りることとなったが、今まで運営に協力してきたノウハウを活かして単独での開催を行い、コロナ前に匹敵するR5年度に掛けて3万人規模の集客に成功した。

#### 2 地域との連携と観光振興

- ①新日本海新聞社との連携イベントは7,8月と開催することができ(19,254人)を集めた。
- ②春・夏の「公園まつり」では、スタンプラリーなど一定の利用はあった。
- ③「いいじゃんプロジェクト」との共催で行う「にゃんにゃんフェスタ」は、定期開催の人気イベントとして定着しつつある。
- ④例年夏休みに開催していた「夢みなどこどもまつり」は中止となったが、2~3月に掛けて絵の展示会という形で代替開催をすることができた。

#### 3 効率的な施設

- ①空調方法の見直しを行い、燃料・電気の消費を抑えることで約400万円の収支改善効果があった。
- ②ホールの無料開放は地元の子育て家庭を中心に広く定着しつつあり、新聞にも取り上げられるなど喜ばれている。

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度目標(人) A	15,000	15,000	6,000	15,500	35,000	5,000	3,500	3,500	5,500	3,000	2,000	16,000	125,000
令和4年度実績(人) B	1,982	3,817	5,511	10,256	15,677	4,351	4,224	4,663	5,158	1,911	1,886	13,104	72,540
対目標比率(%) C=B/A	13.2%	25.5%	91.9%	66.2%	44.8%	87.0%	120.7%	133.2%	93.8%	63.7%	94.3%	81.9%	58.0%
令和3年度実績(人) D	8,103	6,810	3,219	9,133	17,012	1,537	2,407	3,797	4,772	1,525	793	3,265	62,373
対令和3年度比率(%) E=B/D	24.5%	56.1%	171.2%	112.3%	92.2%	283.1%	175.5%	122.8%	108.1%	125.3%	237.8%	401.4%	116.3%

入館者の推移、増減要因

【対目標比】58.0% 【対前年比】116.3%

オミクロン株の急拡大で大型イベントが中止となった4、5月で大きく出遅れたものの、わんにゃんフェスタや国際交流の日、フリマといった中型イベントの開催増でコツコツと挽回することに成功し、3月のダンボール遊園地単独開催で大きく上積みをして前年を上回るすることができた。特に秋以降については全国旅行業支援に2月3月の暖冬も重なり、3月のダンボール遊園地を除いてもH30やR1を上回る数字となっており、コロナ禍以前の数字に戻ったと言える。唯一、コロナからの回復が遅れているのはインバウンドとなるが、これもR5年度はクルーズ船や国際便による回復が期待できる。

# 令和4年度事業実績報告書

## 【とっとり花回廊】

### 1 事業概要

<p>(主な取り組み)</p> <p><b>1 植栽</b></p> <p>①「Happiness」をテーマに、季節ごとに移りかわる花々とともに、幸せの空間を演出する展示を実施した。テラス展示では春はチューリップの森の中の散歩道、初夏は森の中に広がる花畑、秋は「食欲の秋」をテーマに園内で栽培した巨大カボチャや秋野菜など田舎の畑の雰囲気を目で楽しんでもらう展示を行った。</p> <p><b>2 催事</b></p> <p>①寄せ植え体験や3年ぶりの著名な園芸家による講演会、昨年度に続き県内産切り花展を開催し来園者の満足度を高めるとともに花き園芸振興の拠点施設としての役割を担った。園内周遊型体験メニューとして一般来園者が気軽に楽しめるフラワービンゴの販売を開始した。</p> <p>②イルミネーションは初めて米子高専と自動制御(ムービングイルミネーション)に関する共同研究を行い、新たな見どころを提供した。全体のイルミネーションはスタッフ自らが手掛けて思わず幸せいっぱいになるような演出を提供し、フラワースタートレインの毎日運行、週末及び年末年始を中心に花火の打ち上げなど魅力向上に努めた。</p> <p>③地元団体・企業による駐車場利用でのイベント開催に協力し、野外チャリティー音楽イベント、高校生アマチュアバンド選手権、農機具展示会の利用があった。</p> <p><b>3 広報</b></p> <p>①春の繁忙期に向けてのTVCMの実施や各季節の折込チラシを中心に、花のみどころ情報などの発信に努めた。</p> <p>②公式YouTubeチャンネルにて話題性のある動画を配信したりSNSを活用し情報発信に取り組んだ。また撮影機材としてドローンを新規購入し、職員が講習にて技能を習得、SNSにて動画を公開した。</p> <p><b>4 営業</b></p> <p>①新型コロナウイルスの行動制限の緩和に伴い、日帰り圏を中心に旅行会社営業を実施した。また3月には台湾での旅行会社商談会に参加し4月の台湾チャーターに向けて商談をおこなった。</p> <p><b>5 交流事業</b></p> <p>①花育の地域連携として、近隣小学校と連携した自生ササユリのバイテク増殖球根の植付けや鳥取県内産花苗を使用した寄せ植え体験を実施した。</p> <p>②南部町が実施する成人式やウォーキングイベントなど各種企画に協力した。また、米子タカシマヤと連携し、バラなどの出張販売、店頭ディスプレイの制作、新年の福袋など様々な企画を実施した。米子市中心街で開催される地ビールフェスタへ米子市観光協会の会員として牛骨ラーメンの提供で出店した。</p> <p>③米子高専と包括連携協定を締結し、県内間伐材のベンチの寄贈、イルミネーションの共同研究、デジタル教室の開催、授業での学生への課題提供(シフト作成ソフト開発)など様々な分野で連携を図った。</p> <p><b>6 売店・レストラン・屋台</b></p> <p>①レストランでは県産エディブルフラワーを活用した新メニュー「フラワーパスタのランチ」を開発し、屋外店舗でも冷やし中華、バーガー、フロートなどオリジナルメニューを新たに提供した。</p>	<p>(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)</p> <p><b>1 植栽</b></p> <p>①県内産の花壇苗を植栽し季節ごとに移りかわる花々とともに、幸せの空間を演出する展示を実施し入園者は前年度比115%と増加した。</p> <p><b>2 催事</b></p> <p>①花にまつわる様々なイベントや展示会を実施し花き振興に貢献することができた。また県内産切り花展や園芸ショップでの県内産苗販売を通じて県内産花きのPRをおこなった。フラワービンゴは年間で1,170名の参加があり園内を周遊し植物と触れ合えるメニューを提供出来た。</p> <p>②イルミネーション期間中に56,000名の来園があり、ムービングイルミネーションを導入した西館テラスのアイアンツリーや水上花壇を中心に来園者の評価が高かった。水上花壇はデジタル教室に参加した県内の小学生14名デザインによる点灯パターンを採用し地域一体でイルミネーションづくりが出来た。フラワースタートレインは積雪による運休もあったが、前年度より多い11,170名に乗りいただいた。</p> <p>③様々なイベントの開催に協力し、花回廊のPR及び集客につなげた。</p> <p><b>3 広報</b></p> <p>①繁忙期の春や冬のイルミネーションにあわせてTVCMなど積極的に宣伝活動に取り組んだことが誘客につながった。BSよしもとの出演やダラズFMの収録に参加するなど、無料のPR媒体を有効に活用した。</p> <p>②ドローンで撮影した映像を公式YouTubeにて配信し、普段見ることが出来ない花回廊の魅力を提供し新規顧客層を開拓した。</p> <p><b>4 営業</b></p> <p>①営業活動により団体客は前年度比211%と大幅に増加した。台湾チャーターはツアーのコースに組み込まれており、4月上旬に約280名が来園され現地商談会への参加効果があった。</p> <p><b>5 交流事業</b></p> <p>①ササユリの植付けを通じて、生物多様性の保全に取組みSDGsを学ぶ機会を近隣の小学生に提供した。</p> <p>②地域連携として南部町や地元企業と様々なイベントに取り組み地域の活性化に寄与した。今後も様々な形で園外への出店活動を継続し地域との交流を図っていく。</p> <p>③SDGsやイルミネーションに関連する小学生向けデジタル教室を6回開催し、家族で学んで楽しめるイベントが出来た。またイルミネーションの共同研究では研究に参加した学生が取材されるなどマスコミにも多く取り上げられ集客とともにPR効果もあった。</p> <p><b>6 売店・レストラン・屋台</b></p> <p>①県産のエディブルフラワーを使用したパスタは周辺施設で提供している食事施設が無く、花回廊のオリジナルメニューとして来園者からの人気が高く、6月の開始から1,200食以上提供した。</p>
---	---

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度目標(人) A	51,800	57,700	26,700	14,100	22,000	20,000	26,900	40,800	42,100	18,900	5,200	23,800	350,000
令和4年度実績(人) B	38,903	47,202	20,182	8,184	12,537	12,634	24,451	32,205	32,605	12,057	4,776	21,395	267,131
対目標比率(%) C=B/A	75.1%	81.8%	75.6%	58.0%	57.0%	63.2%	90.9%	78.9%	77.5%	63.8%	91.9%	89.9%	76.3%
令和3年度実績(人) D	28,258	30,134	13,246	7,525	8,396	14,480	24,855	37,359	33,795	14,850	3,587	15,804	232,289
対3年度比率(%) E=B/D	137.7%	156.6%	152.4%	108.8%	149.3%	87.3%	98.4%	86.2%	96.5%	81.2%	133.2%	135.4%	115.0%

#### 入園者の推移、増減要因

【対目標比】76.3% 【対前年比】115.0%

1年を通して新型コロナウイルスの影響を受け、目標入園者数に対して全ての月で未達となった。前年比では4月は天候に恵まれたことやWeLove山陰キャンペーンの効果、学校団体増えたことで増加。5月はGWを含め天候に恵まれ、新型コロナウイルスの行動制限が無くなったことや学校団体、ツアー団体が増えたことにより増加。6月は屋外ステージイベントの開催や一般団体客が増え増加。7月は新型コロナウイルスの感染再拡大の影響を受けたが団体客が増えたことにより増加。8月は花の日の無料開園日に多くの来園があり増加。9月は台風による天候不良や野外コンサートが無かったことで減少。10月はWeLove山陰キャンペーン終了の影響で減少。11月は全国旅行支援の効果で県外客が増えてきたがWeLove山陰キャンペーンの終了の影響で減少。12月は懸賞旅行の団体が大幅に増加したものの新型コロナウイルスの感染者の増加や天候不良に伴い減少。1月は天候不良によりイルミネーションの集客が伸びなかったことにより減少。2月は天候に恵まれ増加。3月は桜の開花が早く個人客や団体もツアーが好調で外国からのクルーズ船客の来園もあり増加。

# 一般財団法人鳥取県観光事業団 給与等状況報告書

## 1 職員給与の状況（令和4年度）

職員数	給 与 費			
	給 料	職員手当	期末・勤勉手当	計
52 人	158,872 千円	32,205 千円	47,786 千円	238,863 千円

（注）職員手当は、退職手当、期末手当及び勤勉手当を含みません。

## 2 職員の平均給料月額、平均給与月額及び平均年齢の状況（令和5年4月1日現在）

一般職		
平均給料月額	平均給与月額	平均年齢
259,934 円	304,124 円	43.0 歳

（注）1 「平均給料月額」は扶養手当等の職員手当を含まない給料のみの平均月額です。

2 「平均給与月額」は、給料月額と毎月支払われる手当（期末手当、勤勉手当及び退職手当以外の手当）とを合計したものの平均月額です。

## 3 職員の初任給の状況（令和5年4月1日現在）

区 分	初 任 給	備 考
一般職	大学卒	164,300 円
	高校卒	143,000 円

## 4 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況（令和5年4月1日現在）

区 分	経験年数	5 年	10年	20年	30年	備考
一般職	大学卒	202,800 円	240,267 円	333,600 円	- 円	
	高校卒	- 円	- 円	- 円	- 円	

参考

27年 平均給与月額 379,100円

5 職員手当の状況（令和5年4月1日現在）

区 分	内 訳			
期末手当 勤勉手当	〔支給割合〕			
	区 分	期末手当	勤勉手当	
	6月期	1.00 月分	0.70 月分	
	12月期	1.00 月分	0.70 月分	
	計	2.00 月分	1.40 月分	
	注 通常時の掛け率を記載			
	職制上の段階、職務の 級等による加算措置 有			
	〔令和4年度実績〕			
	支給総額	支給職員数	1人あたり平均支給額	
	47,786,160 円	52 人	918,965 円	
退職手当 (県の規定に準ず る)	〔支給率〕			
	区 分	自己都合	勸奨・定年	
	勤続 20 年	19.6695 月分	24.586875 月分	
	勤続 25 年	28.0395 月分	33.270750 月分	
	勤続 35 年	39.7575 月分	47.709000 月分	
	勤続 40 年	44.7795 月分	47.709000 月分	
		(その他の加算措置)		
		定年前早期退職特例措置 ( 2%～ 20%加算)		
		25年以上勤続した年齢50歳以上の職員が、定年前勸奨等により 退職する場合に加算があります。		
		〔令和4年度実績〕		
	支給総額	支給職員数	1人あたり平均支給額	
	3,292,155 円	1 人	3,292,155 円	
	(注) 1 ( ) 内は、勸奨、定年及び早期退職制度による退職者への 支給実績を再掲したものです。			
	2 退職手当の1人あたり平均支給額は、令和3年度に退職した 一般職員に支給された平均額です。			
時間外勤務手当	〔令和4年度実績〕			
	支給総額	支給職員数	1人あたり平均支給年額	
	4,321,485 円	38 人	113,723 円	
年末年始手当 12/31～1/2の間に 勤務を命じられた 職員	その勤務1日につき 2,000円 (半日につき1,000円)			
	〔令和4年度実績〕			
	支給総額	支給職員数	1人あたり平均支給年額	
	96,000 円	29 人	3,310 円	

区分	内 容				
	対象職員	支 給 月 額			
管理職手当	一定の管理または監督の地位にある職員	給料表、職務の級、手当区分に応じて定額を支給			
		本部長、園長、館長	50,000 円		
		次長、副園長（とっとり花回廊に限る）	40,000 円		
		副園長（とっとり花回廊を除く）、副館長、部長、参事 シニアマネージャー	30,000 円 20,000 円		
		〔令和4年度実績〕			
		支給総額	支給職員数	1人当たり 平均支給月額	
		7,440,000 円	15 人	41,333 円	
扶養手当 (県の規定に準ずる)	扶養親族として配偶者、子等を有する職員	ア 配偶者、父母等	6,500 円		
		イ 満22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子	9,200 円		
		15歳に達する日以後の最初の4月1日から22歳に達する日以後の最初の3月31日まで	1人につき 5,000 円を加算		
		〔令和4年度実績〕			
			支給総額	支給職員数	1人当たり 平均支給月額
			6,488,300 円	25 人	21,628 円
住居手当 (県の規定に準ずる)	住宅を借り受け月額12,000円を超える家賃を支払っている職員	ア 借家・借間居住者	家賃の額に応じ、 最高 27,000 円まで支給		
		イ 単身赴任手当受給者で配偶者に居住させるため借家・借間を借り受けている者	借家・借間居住者の例によった場合の額の2分の1相当額		
		〔令和4年度実績〕			
			支給総額	支給職員数	1人当たり 平均支給月額
		5,849,800 円	20 人	24,374 円	

区分	内 容			
	対象職員	支 給 月 額		
通勤手当 (県の規定に 準ずる)	交通機関等を利用し、または自動車等を使用して通勤している職員	ア 交通機関等利用者	次の①または②のうち、支給単位期間当たりの額が低い方の額。 ①支給単位期間の間通用する定期券の額 ②通勤21回分の回数券の額 <最高限度額 55,000 円>	
		イ 自動車等使用者	通勤距離に応じ、月額 1,600 円から 50,100 円の範囲内で支給	
		ウ 特別急行列車等利用	1 か月の特別急行料金等の2分の1の額を加算（高速自動車国道等特別料金等については2万円を限度）	
		エ 駐車料金を負担している場合 (パークアンドライド)	公共交通機関等及び自動車等に係る通勤手当をともに受けている職員が、公共交通機関の利用に伴って駐車場を利用し、駐車料金を負担することを常例としている場合に、当該駐車料金に相当する額を支給  (1ヶ月あたり 3,000 円を上限とする。)	
	〔令和4年度実績〕			
		支給総額	支給職員数	1人あたり平均支給月額
		7,934,768 円	50 人	13,225 円
単身赴任手当 (県の規定に 準ずる)	異動等を原因として単身赴任となった職員	月額 30,000円+加算額 〔加算額〕 職員の住居と配偶者の住居の交通距離に応じて、6,000円から58,000円までの範囲で定める額。ただし、100キロメートル未満の場合は加算はなし		
		〔令和4年度実績〕  なし		
宿日直手当	宿日直勤務を命じられた職員	その勤務1回につき 4,400円		
		〔令和3年度実績〕		
		支給総額	支給職員数	1人あたり平均支給月額
	74,800 円	4 人	1,558 円	

6 役員の報酬等の状況（令和5年4月1日現在）

区 分	報酬月額	期末手当	備 考
理 事 長	340,000 円	6月期 1.70 月分 12月期 1.70 月分	加算率45%
評議員	1日につき20,000 円		
非常勤理事	1日につき20,000 円		
非常勤監事	1日につき30,000 円		理事会出席時は1日につき、20,000円

[令和4年度実績]

①常勤役員

支給総額	支給者数	1人当たり 平均支給月額 (期末手当等を含む)
5,756,200 円	1 人	479,683 円

②非常勤役員

支給総額	支給者数	1人当たり 平均支給月額
800,000 円	10 人	6,667 円